



## PBD使用の液状化対策工法

# RPD工法を開発

浅沼組と不動テトラ、錦城護謨の3社は、プラスチックボードドレン材（PBD）を用いた液状化対策工法「RPD工法」を開発した。8日に土木研究センターから建設技術審査証明書が授与された。

同工法は、PBDの先端をアンカーで非液状化層に定着し、PBD頭部をジオグリッド（補強用ネット型シート）と固定治具で連結し、液状化を防止する。

PBDは目詰まりしにくく、劣化しにくいいため、半永久的に排水機能を確保することができ、地震時に発生する地盤内の過剰間隙水圧を速やかに消散することができる。PBD頭部をジオグリッドで連結することで、地盤をPBDとジオグリッドで囲まれた領域に分割、領域内の土粒子の移動を抑え地盤の変形も抑制する。

振動台実験で、盛り土構造物や地中構造物への適用事例の有効性を検証しており、今後はパイロット事業などへの積極的な適用を進める考え。

▷問い合わせ先—浅沼組技術研究所（高槻市）  
☎072（661）1620、不動テトラ建設本部地盤事業部地盤技術部（東京都中央区）☎03（5644）8534、錦城護謨土木事業本部技術部（八尾市）  
☎072（992）2321